



第85巻 第1号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

どんな時でも希望を抱いて

シスター田代 嘉子

主のご降誕と

新年のお喜びを申し上げます。

旧年中皆様からの温かいご支援、ご助言に心から感謝申し上げます。今年も新しい年がよりよい年になることを願い、皆様からのご意見やご要望にも真摯に耳を傾け、創立者の遺志を受け継ぐ者として、福祉サービスの充実にも努め、特に高齢者や障がいのある方々、そして子どもたちが笑顔で毎日を過ごせるよう、職員一同、心を込めて支援して参ります。



那須トラピスト修道院の客室棟玄関前にあるマリア観音(石碑には安政の文字が見える)

昨年十月那須トラピスト修道院で一週間ほど黙想の時を過ごしていたとき、玄関脇にある「マリア観音」(左上の写真)に気づき何うと、数年前に那須白河のあるお寺さんをお持ちになったとのこと、最近では巡礼者もこれられるとのことでした。マリア観音は、キリスト教が禁じられていた江戸時代に、潜伏キリシタンが信仰を続けるために作られ、聖母マリアを観音像に見立て、仏教徒を装いながら密かに祈りを捧げていたとされています。安政という時代を調べてみると、日本が鎖国から開国へと大きく舵を切った年として知られており、またM8.4という非常に大きな地震が西日本を襲い、津波と火災が発生し、甚大な被害で多くの命が失われた時代だったことが分かります。前教皇フランシスコは『希望は欺かない』の中で、「どんな時にも、すべての人は希望を抱きます。明日は何か起こるか分からないとはいえ、希望はよいものへの願望と期待として、一人ひとりの心の中に宿っているのです」という言葉を残しています。

すが、穏やかなお姿のマリア観音と、先人たちの祈りの心を重ね合わせる事ができました。

新年に恐縮ですが、昨年11月の初め、毎日新聞のコラム欄に載っていた「8文字のつぶやき」という見出しに惹かれ、数度読み返しました。

「北海道の大学生が希少がんで亡くなり、X(ツイッター)に投稿していた言葉が大きな反響を呼び、研究機関や病院への寄付が広がっている。」

『グエー死んだンゴ』のフレーズがつぶやかれたのは、逝去から2日後で、死を予期した本人が、生前に予約投稿をしていたらしく、閲覧は一週間で3億回を超え、寄付の呼びかけが拡散した。22歳の若さで闘病を続けた気持ち想像すると胸が痛む。それでも投稿に悲壮感は少ない。

「取り乱しても治るわけじゃないし来世に期待や」どこか達観したような言葉を残している」と。私にとっでは聖フランシスコの祈り「：絶望のあるところに希望を、闇あるところに光を：」を彷彿させ、亡くなった青年は、苦しい闘病生活の後に、多くの人に、未来に希望を抱く者の幸いを教えているように感じたのです。

真に慈しみに生きることを探し続けていく新しい年でありますようにとお祈り申し上げます。

(慈生会理事長)

謹んで主のご降誕と新年のご挨拶を申し上げます、皆様の上に豊かな恵みをお祈り致します。

社会福祉法人 慈生会

理事長 Sr・田代嘉子

役職員一同

徳田保育園

中野トータルサポートセンター

ベタニアホーム

慈しみの家

ベタニア・デイ・ホーム

中野北ベタニア訪問看護ステーション

慈生会中野ケアプランセンター

ベタニアヘルパーステーション

中野区江古田地域包括支援センター

ナザレットの家

ベトレヘム学園

聖家族ホーム

聖ヨゼフ老人ホーム

ベトレヘムの園病院

マ・メゾン光星

指定相談支援事業所 ノエル

放課後等デイサービス エスポワール

多機能型事業所 フルール

学校法人 東星学園

(小・中・高等学校)

理事長 Sr・田代嘉子

教職員一同

ベタニア修道女会

総長 Sr・田代嘉子

姉妹一同

子ども達と共に

小川 麗美子

徳田保育園では「主体性保育」を念頭に2025年度をスタートしました。試行錯誤の中で保育士だけではなく、全ての職員が一丸となりチーム保育として園内研修を重ね、真摯に子ども達と関わってきました。主体性保育とは「子どもが自らの意思で判断して、行動することを尊重する保育」です。そのために環境を整え、サポートしていきます。今、子ども達が何に興味があるのか、何をしたいのか常に保育士に観察力が求められます。

先日の聖劇では主体性保育としてどのように聖劇に取りくむのか、事前に先生達で話し合い進めていきました。絵本の読み聞かせや年長児にはモンテッソーリ教育の文化教育より、2つの提示を行いました。「黒い長い年表」では人間の存在の短さを、黒い長いリボンをみんなを持って体感しました。「歴史の中心なる

キリスト」では、西暦の起源がキリストであることを数教育のビーズを使いながら、実際に年数を数えて活動しました。この体験を通して、子ども達が聖劇の意味を知り自分達で言葉を考え、本当のクリスマスを劇として表現して伝えていくことで、祈りになったと思います。

主体性保育をすすめていくなかで、子ども達の中に集中力や自分で挑戦していく心が育っていると感じています。自分の心が満たされることにより、自分だけではなく友達を尊重する心につながっていき、平和への第一歩になると信じています。フロジャク神父様の御言葉「生きることが愛すること」を忘れずに、日々子ども達の姿から学び、2026年度も共に成長していきたいと思っています。幼な子のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない

そして、イエスは幼な子たちを抱き、彼らの上に両手を置いて祝福された。

マルコによる福音

(徳田保育園保育士)

どんぐり祭を終えて

荒城 貴広

今年で五十三回目の開催となったどんぐり祭。コロナ禍以降、どんぐり祭のすがたは変化してきています。



昨年度に引き続き、キッチンカーや卒園生家族によるやさそば屋台など、新たな取り組みも恒例の物になりつつあります。各コーナーも試行錯誤し、長年続けてきている事も大切にしながら、当日に向け準備や計画をしてまいりました。

どんぐり祭を中心となっていた施設長から二年前に引き継がれた新たな係メンバーで準備を進めてきましたが、事前準備や当日の流れの中では、旧職員の方々、卒園生、関係者の皆様には不十分な対応となっていました。不行き届きな点



につきましては心からお詫び申し上げます。

そのような中でも、ご来場の皆様のお楽しみが多くの見られ、また温かい言葉を頂きました。関係者様ならびにご来場の皆様におかれましては感謝申し上げます。

今年度は老人ホーム前のスペースをお借りしてショー

を行い、Sr.の販売コーナーも設けるなど少しずつ規模を広げており、かつてのふれあいバザーのように地区全体で盛り上げていけるか可能性を探っています。

(ベトレム学園養護主任)

東星学園の職員黙想

長谷部 準子

新年あけましておめでとうござい
ます。

本年度も、ベタニアファミリーの
一員である東星学園をよろしくお願
いいたします。

東星学園では、年に一回、職員黙
想を行います。日頃の煩わしさを離
れて自分を振り返る一日を過ごすた
めに小中高の宗教部が企画をしてい
ます。職場を離れての実施としてす
るため、秋津教会をお借りする場合
もありますが、創立者の足跡を辿る
ために、徳田教会をはじめ、上野教
会や関口教会を訪れたこともありま
す。昨年の九月の職員黙想では、カ
トリック府中墓地と府中教会を訪れ
ました。府中墓地には、創立者ヨゼ
フ・フロジャク神父様が、東京教区
司祭の墓所に葬られており、教職員
一同でお墓参りをするのができま
した。また、ミルサン神父様やお世
話になったベタニア修道女会のシス
ター方のお墓参りもできました。

カトリック府中墓地の土地を購入
し、教区の墓地として利用するよう
にされたのは、フロジャク神父様で
す。創立者とのかわりのある府中
墓地の聖堂で、児童の作成した紙芝
居を用いて、創立者の生涯と想いを
知る時間を取り、分かち合いを行
いました。その後、カトリック府中教
会でスーカル神父様(主任司祭)
司式のミサに与りました。学校を離
れた場所で、教職員一同で創立者に
ついて学び、語り、祈る時間はとて
も有益な時間となりました。

児童生徒は、宗教の時間等で創立
者について学ぶ時間をとっています。
教職員も、職員黙想の一日を利用し
て一人一人が創立者の想いに触れる
ことができました。

生徒指導に悩む時、「フロジャク
神父様ならば、こうした際にどうさ
れるのかな」と考える時もあります。
弱くされた方々に寄り添い続けたフ
ロジャク神父様の想いを大切にしま
がら、児童生徒と向き合っていま
います。

(東星学園中学校・高等学校教頭)

ベタニアの家チャリティー
コンサート報告

実行委員長 西山 悦子

2025年12月12日フロジャ
ク神父様のご命日の日、カトリック
徳田教会にて「ベタニアの家チャリ
ティーコンサート」を実施いたしま
した。師走のご多忙の中、多くの方
にご来場をいただきましたこと、心
より御礼を申し上げます。今回のチャ
リティーコンサートは、昨年に引き
続き、清瀬市梅園にあります特別養
護老人ホーム(聖ヨゼフ老人ホーム)
の改築および改修の支援を目的に、
開催をいたしました。



オルガニストの青田絹江先生は、
国立音楽大学器楽学科オルガン専攻
を首席で卒業され、その後フランス
で研鑽を積まれトウールーズ国際音
楽コンクールをはじめ数々のコンク
ールで、受賞をされました。青田先生
はこのような著名な先生でおられる
にもかかわらず、今回のチャリティー
コンサートにあたり、連日そして当

日のコンサートが始まる1時間前ま
で、無心に練習を重ねられ、コンサ
ートに臨んでくださいました。そのお
姿をまじかに拝見いたし、私は勇気
をいただく事ができました。



演目はJ・Sバッハのなじみのあ
る「アヴェマリア」「主よ人の望み
の喜びを」「神よ、われら汝に感謝
す」、N・ブルーンズ、E・トレス、
P・ペレスらの教会音楽でした。本
格的な教会音楽でしたが、青田先生
は一曲一曲ごとに、丁寧に解説をし
てくださいました。荘厳なパイプオ
ルガンの演奏の中、私たちも青田先
生とともに「平和への祈り」に参加
することができました。心より、厚く
御礼を申し上げます。

聖ヨゼフ老人ホームからは5名の
利用者様も参加をしてくださいまし
た。「ちょっと難しかったけど、昔
サントリーホールで聴いたコンサ
ートのようでした!」と感想を聞かせ
てくださいました。

最後にチケットの売り上げとご寄
付の総額は(708100円)とな
りました。皆様方の温かなお力添え
に、重ねて御礼を申し上げます。

(聖ヨゼフ老人ホーム 施設長)

未来の子どもたち
からの預かりもの
種まきシリーズ[®]
マ・メゾン光星

4 質の高い教育を
みんなに



障害者支援施設マ・メゾン光星におけるSDGs、目標4の「質の高い教育をみんなに」の取り組みを紹介します。これはすべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する目標になります。その中の一文には障がいがあってもあらゆる段階の教育や、職業訓練を受けることができるようにするということが示されています。



マ・メゾン光星では「こじか勉強会」というご利用者向けの勉強会が月に1回行われています。これはカトリック系小学校の教材として採用されていて週刊誌「こじか」を利用しながら聖書をもとに、神様の愛と慈しみに触れ、良

き隣人となれるように神様の恵みに信頼して学びあうことを目的に開催されています。毎年20名以上の方が希望されている会ですが、信者さん以外にも多く参加されています。マ・メゾン光星のご利用者は知的に障害を持っている方が多く、読み書きが出来ない方も多くいます。そんな方々にも分かり易い学びの場の提供を行っているのです。



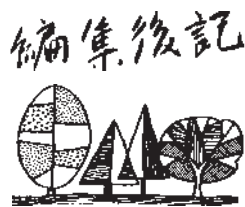
参加するご利用者は勉強が大好きです。

「今日のこじかはピンク色の表紙で、○ページの男の子と女の子が木の下でイエスさまと笑顔でお話している絵が描かれています。」と伝えると、字を読めない方も隣の人と協力しながらページを開き、代表の方が読む文章をじっと耳を澄まして聞いてくれます。内容について質問をすると、みなさん自分の言葉で返してくれます。職員が「そう！その通りですね！」と伝えた時の満面の

笑みがみなさん輝きに満ち溢れています。道徳的に正しいからという受け答えではなく、心から自分の気持ちで答えてくれるその言葉に、職員はいつも新鮮な驚きと感動を覚えます。

SDGsの前文には「ともに持続可能な世界へ向かうこの旅をはじめにあたり、だれひとり取り残さないことを誓います。」という一文があります。学ぶことはどんな方にも平等で価値のあるものです。障害があっても無くても共に学び成長できることを祈っています。

(通所部運営責任者 早乙女 智)



編集後記

ベトレヘム学園では子どもも自治会をしています。子どもたち全員参加が望ましいですが、昨年度は、中高生男子を対象とし、ボードゲーム大会を開催しました。今年度は小学女子を対象としました。まずは集まり今年度みんなで、やってみようことや、楽しみたいこと、子どもたちで企画実行出来るものを話し合い、お

菓子パーティーの開催となりました。みんなが買いたい物に行き、飾りつけを楽しみ時間を楽しみました。

(関 広宣)

前回から続けてSDGs(2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標)記事のマ・メゾン光星で書かせていただいています。この目標は多岐に渡っていて、実際私達が日常的な活動をしている時に、SDGsに通じる高い目標を掲げているわけはありません。ですが、SDGsの記事について考える事で、施設の取り組みでいる事が、少しでも社会や世界への貢献に繋がっている事に気づき、自分たちの活動の素晴らしさを再認識するきっかけを頂けていると感じています。

(杉山 智和)

新年おめでとうございます

2026年元旦『神の母聖マリアの祭日』この日は「世界平和の日」として特別に平和のために祈るよう、1968年教皇パウロ6世により定められました。教会は今日も、教皇様の心を受け継ぎ、戦争や分裂、憎しみや飢餓などのない平和な世界が来るように、特別な祈りをささげるように私たちに呼びかけています。希望の巡礼者として歩む聖年の扉がまもなくと閉じられますが、イエス様はいつも共にいます。イエス様への信頼の心で、世界の平和を祈って参りましょう。

(Sr川鍋 眞澄)